

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育実習事前事後指導 pre-post guidance and teaching practice		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職課程必修科目、保育実習指導 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程必修科目、保育士養成課程必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子、秋山真奈美、小竹利夫	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
幼稚園での教育実習に臨むにあたっての理論を確認し、やるべきことを各自がしっかりと踏まえ、必要な学びと準備を進める。個別の活動とグループ活動。教材研究の準備は各自が責任をもって行う。模擬保育や発表では教師としての言葉遣いや視野を考えた取り組みを意識する。実習後のふりかえり発表を通して教育実習の意義を再確認し理解する。				
授業の目標				
①教育実習生として幼稚園の教育活動に積極的に臨む意識を高め、計画的に実習の準備をすることができるようにする。 ②幼児教育の保育内容に対して意欲的に、自覚したうえで臨むことができるようにする。 ③実習後は経験を適切にふりかえり、教師として習得すべき知識や技能についての理解を深めていくことができるようにする。				
授業の方法				
実習前は、実習に向けての幼稚園の実際を知ることと事前準備の演習活動とする。実習後は、記録の提出を含め実習全体のふりかえりを行う。授業のスケジュールと内容については、実習準備の状況や学習内容の習熟度によって前後したり内容を加えることもある。				
学習の成果(学習成果)				
「教育課程を踏まえた幼稚園の保育活動」「専門的技術を活用した指導」「幼稚園教諭の職務内容」について、幼児教育に臨むことで得られる教育実習の意義を再確認することができる。指導計画については、望ましい幼児の環境を意識した内容を捉え、教師として習得すべき知識や技能についてそれぞれが自覚することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	教育実習園の教育課程を確認し、実習準備計画を立てる～個別計画作成～(高橋)			
第2回目	事実に即した記録の観点の確認・実習持参書類の確認～オリエンテーション訪問計画～(高橋)			
第3回目	教科や専門的技術を活用した指導計画の立案～立案の内容と方法～(高橋)			
第4回目	教科や専門的技術を活用した指導計画の立案～製作物の保育展開～(高橋)			
第5回目	教科や専門的技術を活用した指導計画の立案～物的環境を含む環境構成～(高橋)			
第6回目	実習に臨んでの課題を明確にし、遵守すべき義務等を理解する～実習に臨んでの作成～(小竹、高橋)			

第7回目	事例研究～年齢別保育の模擬保育～（高橋）
第8回目	事例研究～空間認知を意識した保育展開～（高橋）
第9回目	事例研究～責任実習を想定した教師の関わりを探る～（高橋）
第10回目	教育実習のふりかえり～得られた成果と課題等の個々の省察・自己評価～（高橋）
第11回目	教育実習のふりかえり～グループディスカッション～（秋山、高橋）
第12回目	実習指導案の再構成～実習を経て得られた成果を基に教育的活動の再確認～（高橋）
第13回目	ふりかえりのポスター作成～学級経営と職務内容の実践報告を加えた構図を考える～（高橋）
第14回目	ふりかえりのポスター作成～視覚的効果を考慮した作成と発表～（高橋）
第15回目	まとめ～教員免許取得までにさらに習得が必要な知識と技能を明確にする～ふりかえりお便りの作成～（高橋）
事前・事後学習	教材研究、事例研究、オリエンテーション訪問、日誌提出、報告書作成

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	実習園の教育方針に適応した実習計画と保育計画を立案する努力が、演習活動に取り組む姿から明確であること。責任を持った事前準備状況であること。「実習に臨んで」の提出期限を厳守していること。
レポート	10%	実習体験をまとめ、さらに学習が必要な事項をまとめたお便り形式の報告書を作成する。（授業内で指示する提出期限厳守）
調査報告書	20%	保育計画の立案を指導案作成し、実際に取り組んだ経験を踏まえた再構成ができています。（授業内で指示する提出期限厳守）
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	20%	教材研究を用いた事例研究発表。教育課程を意識した発表であることが望ましい。
その他	20%	教材研究を用いた模擬保育を行い、保育展開を予測することができている。

教科書と参考図書

「教育実習の手引き 幼児教育編」佐野日本大学短期大学、「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「遊びの指導 乳・幼児編」同文書院
---

履修上の留意点・ルール

教育実習園の教育課程を踏まえ、計画的に実習準備を進めること。実習前の多欠席、課題の未提出、授業参加への意欲低下が認められた場合は個別面談を実施する。
--